

草創期ヴァルドルフ幼児教育の形成過程に関する研究

—グルネリウスとハッターマンに焦点を当てて—

Study on the Early Days of Formation Process of the Waldorf Childhood Education.
—Focusing on Grunerius and Hattermann—

近 藤 千 草
(Chigusa KONDO)

1. 研究の目的と方法

ルドルフ・シュタイナー (Rudolf Steiner 1861-1925 以下、シュタイナーと示す) が設立した「自由ヴァルドルフ学校 (Freie Wardolf Schule)」には、附属幼稚園が存在する。設立者は、エリザベス・グルネリウス (Elisabeth Marie Grunelius 1895-1989 以下、グルネリウスと示す) である。シュタイナーは、自由ヴァルドルフ学校設立時より幼稚園の必要性を述べていたが、設立への困難な状況から、実現したのはシュタイナーの死後であった¹⁾。附属幼稚園設立から3年後にグルネリウスの保育実践に加わった人物が、クララ・ハッターマン (Klara Hattermann 1909-2003 以下、ハッターマンと示す) である。ハッターマンは、ヴァルドルフ幼児教育に携わることを熱望してやって来た人物で、後のヴァルドルフ幼児教育を世界的な規模へと引き上げ、教員養成に尽力した人物である。しかし、ハッターマンの功績やヴァルドルフ幼児教育への影響等に関する先行研究は見当たらない。

そこで、筆者は、前稿「クララ・ハッターマンのバイオグラフィーに関する考察—資料整理を中心に—」において、ハッターマンに関する4つの資料（① “BEDEUTENDE FRAUEN IN HANNOVER”、② “Klara Hattermann und die Anfänge der Waldorfkindergartenbewegung”、③ “Marksteine der Entwicklung der Waldorfkinderärten in Hannover”、④ “Klara Hattermann (1909-2003)”）の読み取りを通し、ハッターマンに関するバイオグラフィーを整理した²⁾。

その結果、資料①では、ハッターマンは、現存するマッシュ湖畔に設立したヴァルドルフ学校に戦後から関わっていたことが明らかになった。ヴァルドルフ学校マッシュ校のホームページからは、本校の設立に関与した「マチルド・ホイヤー」という人物が挙げられており、ホイヤーがヴァルドルフ教育の推進に大きく関わっていると推測され、人物像に迫ることが課題となった。

資料②では、次の四点が明らかになった。一点目は、ハッターマンは、最初のヴァルドルフ幼稚園が設立されたシュツットガルトにグルネリウスを訪れ幼児教育への参加を熱望し、グルネリウスと共に幼児教育を実践するが、1年後にはニュルンベルクでヴァルドルフ教育運動推進の先導者として活躍していたことである。二点目は、ニュルンベルクで州政府に交渉し幼稚園設立へと尽力

するが、ヴァルドルフ教育のカリキュラムや教育内容に対して懸念が示され、公的な学校としての設立が拒否されていたことである。三点目は、ハッターマンは私的な教育施設として幼稚園を開設するが、第二次世界大戦下において幼稚園の閉鎖を余儀なくされたことである。四点目は、1950年代以降、ハノーバーを拠点として教員会議や教員養成の実施、国際ヴァルドルフ幼稚園協会やヴァルドルフ幼稚園教育財団の設立など目覚ましい進展を遂げたこと、ヘルムート・フォン・キューゲルゲン（Helmut von Kügelgen）との対談がなされていたことである。

資料③では、次の五点が明らかになった。一点目は、ハッターマンは、私的な幼稚園としてハノーバーの「オーバー通り」にある2部屋から成るアパートを借りて幼稚園舎とし、そこから「アイレンリーデの森」への散歩を通した保育を行っていたことである。二点目は、第二次世界大戦の影響により、公的な幼稚園が閉鎖を余儀なくされる中、ハッターマンの幼稚園は私的な位置づけにあったことで公的な園よりは長く運営できたが、1941年には園を閉鎖、1946年の再開を待たなければならなかったことである。三点目は、再開した園舎は、ハノーバーのヴァルドルフ・マッシュ校内にあった妹ラデッキ家の母屋であり、7年間に及ぶ母屋での運営には苦労が伴ったことである。四点目は、1952年からは新園舎の建設が相次ぎ、1972年にはハノーバーの北に位置する「リースターダム」にも新たに幼稚園を設立したことである。五点目は、幼稚園の発展を支えた人物についてハッターマンは、ブッシュ夫人とベネッシュ氏を挙げており、関連人物についての調査が課題となった点である。

資料④では、四点が明らかになった。一点目は、ハッターマンが幼稚園教員養成修了後に児童養護施設で働いていたことである。二点目は、ニュルンベルクにおいて少年の世話をし、ドレスデンの幼稚園が閉鎖されたことで妹のいるポーランドへ行った時にも妹が経営する児童養護施設において働いたことである。三点目は、その職務を退いた後には、「ハルツ郡ターレ」にて「女性セミナー」に位置付けられていた「青少年指導者養成課程」を修了したことである。四点目は、ウィルマ・エラージック（Wilma Ellersiek 1921-2007）が遊びについて“Ellersiek-Spiele”にまとめたことであつた。ハッターマンの福祉的な取り組みと、エラージックと共に作成した遊びについて調査の必要性が見出された。

資料①から資料④を通して明らかになったバイオグラフィーを一覧表にまとめ、ハッターマンの歩みを概観した。ハッターマンの歩みを整理すると、ハッターマンと共に活躍したグルネリウスの両者の歩みを整理する必要性が生じた。そこで本稿では、新たな資料（表1）を追加して、ヴァルドルフ幼稚園の草創期にパイオニアとして活躍したグルネリウスとハッターマンの両者に焦点を当て、草創期のヴァルドルフ幼児教育の実態に迫ることを目的とする。そして、本稿及び前稿での資料分析を通し、新たな課題を抽出したいと考える。

表1 分析資料

	資料（原文）	資料（和訳）
1	Erziehungskunst Jahrgang49 Heft 6 1985 Klara Hattermann “Aus der Schulbewegung Elisabeth Grunelius zum 90. Geburtstag”	掲 載：ヴァルドルフ教育学49巻 6 号1985年 著 者：クララ・ハッターマン タイトル：「学校運動から エリザベス・グルネ リウス90歳の誕生日に寄せて」
2	22 July- 4 August 2019 NurseryWorld 21 EYFS best practice all about... Steiner Waldolrf education The history of the influential early years education movement and how it is being put into practice today By Janni Nicol “Kindergarten pioneers”	掲載誌：『乳幼児の世界』 掲載日：2019年7月21日～8月4日 テーマ：EYFS における好事例 シュタイナー・ヴァルドルフ教育について 影響力のある幼児教育運動の歴史と 今日における状況 著 者：ジャンニ・ニコル タイトル：「幼稚園のパイオニア」
3	Sophia Institute The First WaldorfKindergarten 12/9/2019 “The Beginnings of Our Waldorf Early Childhood Movement by Susan Howard”	出 典：ソフィア研究所 テーマ：最初のヴァルドルフ幼稚園 掲載日：2019年12月9日 著 者：スーザン・ハワード タイトル：「ヴァルドルフ幼児教育運動の始まり」

上記3資料について以下の方法により分析する。

- ①資料を読み取り、概要を示す。
- ②資料概要を表に整理する。
- ③概要を考察する。

2. 資料分析

2-1. 資料1 “Aus der Schulbewegung Elisabeth Grunelius zum 90. Geburtstag” の分析

出 典：『ヴァルドルフ教育学 第49巻 6号』
出版年：1985年
著 者：クララ・ハッターマン
タイトル：「学校運動から エリザベス・グルネリウス90歳の誕生日に寄せて」

本資料は、ハッターマン自身が、ヴァルドルフ教育誌に寄稿した資料であり、ハッターマンが74歳の時にグルネリウス90歳の誕生に際して祝辞と共に、グルネリウスの功績を称える内容が示されている。内容を5項目に区分し、タイトルを付けた上で概要を示す。

（1）資料概要

1985年6月15日にエリザベス・グルネリウスが90歳の誕生日を迎えるに際し、国際ヴァルドルフ幼稚園運動を祈念して挨拶を申し上げるとハッターマンは冒頭に述べ、グルネリウスについて次の

ように紹介している。

①人間の発達特性と育ちに関するグルネリウスとシュタイナーの対話

エリザベス・グネリウスは、ルドルフ・シュタイナーが任命したヴァルドルフ幼稚園最初の教師である。1923年にはドルナッハで、「精神科学の観点からの教育実践 (Pädagogische Praxis vom Gesichtspunkt geisteswissenschaftlicher Menschenkenntnis)」に関する一連の講義の中で、シュタイナーは深い遺憾の意を込めて幼児教育の必要性を語った。グルネリウスは1926年の復活祭に、シュトゥットガルトのヴァルドルフ学校内に最初のヴァルドルフ幼稚園を設立した。それはシュタイナーが亡くなってから1年後のことであった。

グルネリウスはシュタイナーと人生における最初の7年間の子どもをどのように援助したら良いのか、幼稚園における学びと生活の原則としての模倣をどのように捉えたら良いのか、という点について話している。グルネリウスは、子どもの模倣に関する研究に専念し、実践を通してその結果を導き出そうと試みた。長期にわたる保育実践を通して、グルネリウスは子どもの模倣に対して忠実であり続けた。

人生最初の7年間における子どもの模倣力の重要性について、今日では徐々に理解されている。子どもは、精神的な世界から模倣力を授けられてこの世に生まれてきている。受胎前は神のもとで献身と信頼に満ちて生きているため、誕生後の数年間は同様の行動を続ける特性がある。子どもは環境に信頼を置き、身を捧げて生きているが、まだ完全に身体に具現化されていない。いわば、周囲の人と自身の精神性とを同一視している。テーブルや人形を擬人化し、刺激を与える。このような子どもの力を大人が認識することにより、子どもの精神的な世界を想像することができる。両親や教育者は、子どもの持つ性質に従って育てる必要があることを示しているのである。大人は、子どもが自由にできる空間を作り、子どもの前で行う行為が、子どもにとって模倣に値する価値や意味があるように振る舞うことが重要なのである。このことは、思考や感情の形成にも当てはまる。

②グルネリウスの幼稚園運営について

グルネリウスは、1938年にナチズムによって禁止されるまでシュトゥットガルトにおいて幼稚園運営を続けた。1940年にはアメリカへ招待され、ペンシルベニア州キンバートンに幼稚園を開き、そこからヴァルドルフ学校が設立し、6年間指導した。その後、グルネリウスはニューヨーク近郊のガーデンシティの大学キャンパス内にあるヴァルドルフ学校に幼稚園を設立した。1947年にグルネリウスが1年間の休暇を取った時、第二次世界大戦後にヴァルドルフ幼稚園を設立したいという幼稚園の教師に連絡をした。グルネリウスは、自身の経験と基本的な保育実践の方法についてアドバイスと指導を行った。1954年にアメリカから帰国し、ドルナッハへと向かった。

③ヴァルドルフ幼稚園会議について

グルネリウスは、ハノーバーにおける最初の幼稚園会議に参加した。ヴァルドルフ幼児教育運動に参加している多くの幼稚園教師は、グルネリウスと深いつながりを感じている。グルネリウスは、強い関心と注意力を持って今日的な活動を見守っており、1984年にドルナッハで開催された世界中

から1000人を超える幼稚園教師が集まる国際幼稚園会議にグルネリウスも参加している。

④著書について

グルネリウスは長年の経験を『幼児期の教育』に著した。1950年には初めて英語で出版され、その後ドイツ語版が出版され、それ以来、様々な言語に翻訳されて家庭での子育てや幼稚園教育実践の基盤となっている。日本語版もある。1985年に日本から14人の幼稚園教師がハノーバーのヴァルドルフ幼稚園を訪れた。彼らは日本の様々な都市から来ていたが、ほとんどの教師がこの本について知っていた。

⑤今後の決意

グルネリウスは、シュツットガルトとアメリカにヴァルドルフ幼稚園を設立することにより、世界的な幼稚園運動の礎を築いた。今後もより実り多き出会いと共に、幼稚園運動のさらなる発展を約束したい。ヴァルドルフ幼稚園が発展しているという確信を持つことは、グルネリウスに対する最大の贈り物となることを願う。

（2）概要の整理

上記、資料概要を表2にまとめる。

表2 “Aus der Schulbewegung Elisabeth Grunelius zum 90. Geburtstag” の概要

年	内 容
1923年	○シュタイナーの講義：「精神科学の観点からの教育実践」（ドルナッハ）
以前	○シュタイナーとグルネリウスが人生における最初の7年間について話す。 ・3歳から6歳の子どもの援助方法 ・幼稚園における学びと生活の原則としての模倣の在り方
1926年イースター	○シュタイナーが亡くなって（1925年3月30日）から1年後、シュツットガルトのヴァルドルフ学校内に最初のヴァルドルフ幼稚園設立
1938年	○グルネリウス：ナチズムによって禁止されるまでシュツットガルトの幼稚園を運営
1940年	○グルネリウス：アメリカへ招待され、ペンシルベニア州キンバートン幼稚園を設立、その後ヴァルドルフ学校を設立し6年間指導する。
その後（1948年）	○グルネリウス：ニューヨーク近郊ガーデンシティの大学内にあるヴァルドルフ学校に幼稚園を設立
1947年	○グルネリウス：1年間の休暇を取る。 ○グルネリウス：第二次世界大戦後にヴァルドルフ幼稚園設立を希望する幼稚園教師と連絡を取る。
1950年	○グルネリウス：『幼児期の教育』を著し、英語で出版される。
それ以来	○『幼児期の教育』様々な言語に翻訳される。日本語版もある（1981年）。
1950年～1951年	○グルネリウス：ハノーバーにおける最初の幼稚園会議に参加
1954年	○グルネリウス：アメリカから帰国、ドルナッハへと向かう。
その後（1964年）	○『幼児期の教育』“Erziehung im frühen Kindesalter”：ドイツ語で出版される。

1984年（4月）	○ドルナッハで国際幼稚園会議の開催：1000人以上の教師が参加する。
1985年	○日本から14人の幼稚園教師がハノーバーのヴァルドルフ幼稚園を訪れる。

（3）概要分析

本資料は、ハッターマンがグルネリウスの功績を称えてその歩みを語り、ヴァルドルフ幼稚園発展への願いを綴った資料と言える。文章は、シュタイナーがグルネリウスを最初のヴァルドルフ教師として任命したというところから始まる。最初のヴァルドルフ幼稚園が設立されたのは1926年であるが、その3年前の1923年、シュタイナーはドルナッハにおいて「精神科学の観点からの教育実践」の講義を行っている。この講義は、「幼児期から青年期までの教育 ドルナッハにおける8講義」（“Die Erziehung des Kindes und jüngeren Menschen Acht Vorträge Dornach Die Erziehung des Kindes und jüngeren Menschen Acht Vorträge Dornach”）として、1923年4月15日～4月22日の期間で開催された³⁾。

ハッターマンは、グルネリウスとシュタイナーが「以前」、人生における最初の7年間について話していたことを示している。この資料から「以前」がいつを指すのか定かではないが、シュタイナーは、「現代の教育はどうあるべきか」（1923）“Gegenwärtiges Geistesleben und Erziehung”⁴⁾の中で幼児教育の重要性及び必要性を指摘しており、グルネリウスも著書や講義を通して幼児教育に対する認識を高めていたことが推察される。そして、1926年の復活祭に自由ヴァルドルフ学校附属幼稚園が、シュツットガルトの自由ヴァルドルフ学校内に設立された⁵⁾。幼稚園は1938年まで12年間続けられ、ナチスの影響により幼稚園は閉園となる。

2年後の1940年には、シュツットガルトでの再開を待たず、グルネリウスはアメリカへの招待を受け、ペンシルベニア州キンバートンに向かう。幼稚園が開設された場所は、マイリン農場である⁶⁾。この農場にはヴァルドルフ学校も建設し、6年間に渡り教育活動を展開している。農場主であるマイリン氏は、「キンバートン農学校（Kimberton Farms School）」を設立したことや、長老派の病院、アデルフィ大学、アーサイナス大学に関わっていたことが明らかとなっている⁷⁾。現在も、「Kimberton Waldorf School」という名称において農場に隣接して学校が設置されていることをホームページから確認することができる⁸⁾。

「その後」、グルネリウスはニューヨークへと向かうが、「その後」とは、1948年である⁹⁾。グルネリウスは、ガーデンシティにあるヴァルドルフ学校に、ヘルマン・フォン・バラヴァレ教授と共に幼稚園を設立する¹⁰⁾。幼稚園は大学のキャンパス内にあるとされているが、その大学は、アデルフィ大学（Adelphi University）である¹¹⁾。現在は、The Waldorf School of Garden Cityとして幼稚園から高校までの総合学校として位置づいている¹²⁾。アメリカ滞在中の1947年に、グルネリウスは1年間の休暇を取るとハッターマンは述べている。「休暇」は、キムバートンからニューヨークへ移動する1年前である。この休暇中に、第二次世界大戦後にヴァルドルフ幼稚園を設立することを希望する幼稚園教師に連絡を取っているが、この人物が誰であるかは定かではないため、今後調

査をしていきたい。14年のアメリカ滞在を経て1954年に帰国、スイスのドルナッハへと向かう。ドルナッハは、人智学研究推進の起点となっている場所であり、シュタイナーによる建築物ゲーテアヌム¹³⁾も存在する。1954年以降（59歳以降）のグルネリウスの活動については、現段階では明らかとなっていないため、調査を続行したい。

ハノーバーにおいてヴァルドルフ幼稚園最初の会議が開催され、グルネリウスも参加している。会議が開催されたのは1950年のことであり、17人の教師が集った¹⁴⁾。グルネリウスは1954年に帰国していることから、ハノーバーの最初の会議には、アメリカより帰国して参加したことが予測される。1950年頃からは組織的な動きが活発化し、1952年から53年にかけて、ハノーバーにおいて幼稚園教員養成とセミナー開始、1951年以来、会議を共にしている24園の幼稚園教師は、国際ヴァルドルフ幼稚園協会を設立し、グルネリウスを会長に任命した¹⁵⁾。1984年にはドルナッハで国際幼稚園会議が開催されたことが示されているが、時は4月22日（復活祭）でゲーテアヌムにおいて開催され、グルネリウスは89歳、名誉会長として参加したことがわかっている¹⁶⁾。

ハッターマンは、グルネリウスの長年にわたる幼児教育実践を『幼児期の教育』“Erziehung im frühen Kindesalter”の中で著すと示しているが、本著は1950年の『幼児教育とヴァルドルフ学校計画』“Early Child Education & the Waldorf School Plan.”であり、「その後」を指す1964年にはドイツ語版を¹⁷⁾、我が国では、1981年に『七歳までの人間教育 シュタイナー幼稚園と幼児教育』として刊行されている。ハッターマンは「日本語版もある」、「1985年に日本から14人の幼稚園教師がハノーバーのヴァルドルフ幼稚園を訪れた。彼らは日本の様々な都市から来ていたが、ほとんどの教師がこの本について知っていた」と我が国との交流も示している。ハノーバーに行った14人の日本人教師とは、邦訳をした高橋弘子を中心とした教師である。高橋は同書の「訳者あとがき」の中で、「本書はむしろ、自分（グルネリウス）がシュタイナーから問いかけられた課題への答えなのだと、訳者宛の1979年4月16日付けの手紙で書いています〈（ ）部分は筆者〉」¹⁸⁾と記していることから、訳者である高橋とグルネリウスとの交流があったことがわかる。また、「私は年数回、シュタイナー教育の為の視察団といっしょにシュツットガルトやキャンプヒル村の幼稚園を訪れています」¹⁹⁾と記述していることから、その視察団は、高橋が園長を務めた那須みふじ幼稚園の教師であることがわかる。我が国のことを取り挙げたハッターマンの言葉から、グルネリウスと我が国との深い関連が示唆される。

2-2. 資料2 “Kindergarten pioneers” の分析

出典：『乳幼児の世界』EYFS 早期基礎段階における好事例

「シュタイナーのヴァルドルフ教育について

影響力のある幼児教育運動の歴史と今日における実践状況。」

掲載：2019年7月22日～8月4日

著者：ジャンニ・ニコル

タイトル：「幼稚園のパイオニア」

本資料は、「Nursery World」というホームページの中に、「EYFS Best Practice」(EYFSにおける好事例)として「シュタイナー教育」が、19ページから23ページにかけて取り上げられ紹介されたものである。本誌には、いくつかの教育実践が取り上げられているが、そのうちの一つに「幼稚園のパイオニア」として19ページから20ページに載せられている。EYFSとは、埋橋(2013)によれば、「Early Years Foundation Stage(=早期基礎段階)」の略であり、イギリス(イングランド)の0～4歳の乳幼児の学びと発達、養護の枠組みを表す言葉である。そして保育機関等で就学前教育・保育を実施するに当たって、その元締めともいえるガイドラインがStatutory Framework for the Early Years Foundation Stageである。EYFSは2008年に初めて発行され、2012年に改訂版が発行された²⁰⁾と説明されている。EYFSが目指すことは、目覚ましい発達を遂げる乳幼児期における経験が、その後の人生における可能性に大きく影響するため、安心・安全で幸福であるために基準を設け、保育機関はその条件を満たしていくことである²¹⁾。そのため、EYFSでは、「質と一貫性」、「安定した基盤」、「支援の機会均等」、「学びと発達、および保護と福祉の増進」等を理念に掲げ、子どもを独自の存在として認め、肯定的な関係性のもと、望ましい環境において子どもの発達と学びを支えていく態度の形成を重んじている²²⁾。このようなEYFSの観点から好事例としてシュタイナー教育が取り上げられているのは注目値する。

著者のジャンニ・ニコルは、幼稚園教諭、作家、コンサルタント、教員養成者、シュタイナー・ヴァルドルフ幼児教育学校代表を務める人物である²³⁾。国際的な講義も担当し、IASWECEの理事でもある。IASWECEとは、「International Association for Steiner/Waldorf Early Childhood Education」²⁴⁾(国際シュタイナー/ヴァルドルフ幼児教育協会)である。当協会では、シュタイナー教育に関する刊行物やニューズレターの発行、保育者養成、カンファレンスなどを開催し、世界レベルにおいてシュタイナー幼児教育を推進している。

(1) 資料概要

① グルネリウスのヴァルドルフ教育の学び

最初のヴァルドルフ幼稚園は、1926年、エリザベス・グルネリウスによって設立された。グルネリウスは、ベルリンの「ペスタロッツ・フレーベル・ゼミナール」で幼児教育学を学び、19歳でシュタイナーの下で学び始めた。最初のヴァルドルフ学校の設立後、シュタイナーはグルネリウスに幼児期のカリキュラムの執筆を依頼するが、グルネリウスは、より多くの教育経験を積む必要があるとして辞退した。しかしながらシュタイナーは、彼女を支え、幼児教育と幼稚園教員の仕事について講義を行った。グルネリウスは、人智学的な観点からの発達理解や、継続的な自己教育と模倣を通した実践、これらが幼稚園の生活における基礎であることを理解していった。グルネリウスは、

「ペスタロッツ・フレーベル・ゼミナール」で学んだ、水彩画、粘土、童話、歌、詩、リズムを保育に導入した。

②ヴァルドルフ幼稚園の設立と保育実践と研究

新しい幼稚園は、1926年に完成した。グルネリウスは、直接的な指導よりも、子どもが何を必要としているかを察し、模倣を通して瞑想的に働くことを積み重ねてきた。グルネリウスは、子どもが芸術的な力（雰囲気）に包まれるように、職人を幼稚園に招待した。グルネリウスはクララ・ハッターマンと共に研究グループを組織し、関心を持つ人々と幼児教育へのアプローチを始めた。

③ヴァルドルフ幼稚園の発展

ナチスによりヴァルドルフ学校が閉鎖された時、グルネリウスはアメリカに渡り、最初の幼稚園を開設した。これまでの保育実践は、『幼児教育とヴァルドルフ学校計画』としてまとめた。ヨーロッパへ戻った後、ドイツとフランスに多くの幼稚園設立に寄与した。グルネリウスはハッターマンと共に教員養成を行い、ドイツにおける幼稚園運動を立ち上げた。1969年、ヴァルドルフ幼稚園協会がドイツに設立され、ヴァルドルフ幼稚園運動は世界規模で展開されることとなった。これは、国際シュタイナー幼児教育協会へと発展し、34か国が参画、世界規模でのヴァルドルフ教員養成とヴァルドルフ幼児教育運動の発展を支えている。

（2）概要の整理

上記資料概要を表にまとめると以下の通りとなる（表3）。

表3 “Kindergarten pioneers” の概要

年	内 容
－	○グルネリウス：ベルリンの「ペスタロッツ・フレーベル・ゼミナール」で幼児教育学を学ぶ。
1914年	○グルネリウス：19歳でシュタイナーの下で学び始める。
最初のヴァルドルフ学校の設立後	○シュタイナー：グルネリウスに幼児期のカリキュラムについて書くことを依頼するが辞退される。
－	○シュタイナー：幼児教育と幼稚園教員の仕事についての講義を行う。
1926年	○最初のヴァルドルフ幼稚園設立 ○グルネリウスの教育実践： ・「ペスタロッツ・フレーベル・ゼミナール」で学んだ、水彩画、粘土、童話、歌、詩、リズムを保育に導入 ・直接的な指導ではなく、子どもが必要としていることを察する。 ・模倣を通す。 ・瞑想的に働く。 ・芸術的な力（雰囲気）に包まれるようにするため、職人を幼稚園に招待する。
－	○グルネリウス：ハッターマンと共に幼児教育へアプローチを行う。
ナチスによりヴァルドルフ学校が閉鎖された時	○グルネリウス：アメリカに渡り最初の幼稚園を開設

1950年	○グルネリウス：『幼児教育とヴァルドルフ学校計画』を執筆
ヨーロッパへ戻った後	○グルネリウス：ドイツとフランスに多くの幼稚園を設立
1952年～1953年	○グルネリウスとハッターマン：教員養成を行う。 ドイツにおける幼稚園運動を立ち上げる。
1969年	○ヴァルドルフ幼稚園協会がドイツに設立される。
－	○国際シュタイナー幼児教育協会へと発展する。

(3) 概要分析

1926年に自由ヴァルドルフ学校附属幼稚園が設立された。シュタイナーとグルネリウスとの出会いは1914年で、グルネリウス自らがシュタイナーに会いにドルナッハへ向かったことがハワード(2005)の論考に示されている²⁵⁾。グルネリウスがシュタイナーに出会った当時、グルネリウスはボンにある教員養成課程を修了しており²⁶⁾、シュタイナーの『神智学』を読んでシュタイナーに関心を持ってスイスのドルナッハにシュタイナーを訪ねている²⁷⁾。ボンにある教員養成課程「コメニウス・ゼミナール」では、児童心理学を専攻した²⁸⁾。1916年にはドルナッハを離れ、ベルリンにある「ペスタロッチ・フレーベル・ハウス」という現在も存続する保育者養成校において二度目の学修をし、教師の資格を取得している。在籍中には保育所や幼稚園で働いていたことも示されており、保育実践を重視した学修に取り組んでいたことが推察される²⁹⁾。

2-3. 資料3 “The Beginnings of Our Waldorf Early Childhood Movement by Susan Howard” の分析

出典：ソフィア研究所

テーマ：最初のヴァルドルフ幼稚園

掲載日：2019年12月9日

著者：スーザン・ハワード

タイトル：「ヴァルドルフ幼児教育運動の始まり」

本資料には、“Elizabeth Grunelius and the children of the Stuttgart Kindergarten, 1934”（シュットガルトの幼稚園のエリザベス・グルネリウスと子どもたち 1934年）と説明が付され、グルネリウスと23人の子どもの写真が掲載されている。最初のヴァルドルフ幼稚園が開園したのが1926年であるので開園から8年後のとなる。この年は1938年にナチズムにより幼稚園が閉鎖される4年前であり、充実した幼稚園運営がなされていた時期であることが推察される。

本著者はスーザン・ハワード（Susan Howard）である。本資料の最後にはハワードの経歴について次のように述べられている。

- ・1984年に「サンブリッジ幼児教育者養成プログラム（Sunbridge Early Childhood Teacher Education program）」³⁰⁾を創設し、2018年に退任するまで、教員、プログラム・ディレクターとして従事
- ・WECAN（Waldorf Early Childhood Association of North America 北米ヴァルドルフ幼児教育協会）³¹⁾のコーディネーター及び役員、IASWECE³²⁾（スイスのドルナッハに拠点を置く「国際シュタイナー/ヴァルドルフ幼児教育協会」）の3つのグループのメンバー
- ・ヴァルドルフ教育研究所³³⁾（Research Institute for Waldorf Education）の共同設立者兼役員であり、WECANの教員養成部会のメンバー及びIASWECEにおける教員養成ワーキンググループのメンバー

上記の説明より、ハワードはヴァルドルフ教育に深くかかり、教員養成やヴァルドルフ研究に貢献した人物であることがわかる。本資料は、ヴァルドルフ幼児教育の草創期について記したものであるが、ハワードは、草創期について実態はあまり知られていないとした上で、様々な記事や未発表の原稿、メモ、会話などの話の内容等をつなぎ合わせる作業をしたと述べている。

（1）資料概要

①シュタイナーの幼児教育への思いと臨時的な幼稚園の始まり

最初の「公的な（“official”）」ヴァルドルフ幼稚園は、1926年、シュツットガルトの最初のヴァルドルフ学校の中に開園したが、初期の幼稚園の実態についてはあまり知られていない。そこで草創期ヴァルドルフ幼児教育運動に関する様々な記事や未発表の原稿、メモ、会話などの話の内容等をつなぎ合わせ、その歴史の紐解きを試みることにする。

1919年に最初のヴァルドルフ学校の開校に先立ち、シュタイナーは、人生の最初の7年の重要性と、この形成期を終えた子どもたちを迎え入れられないことを残念に思っていると担任教師に向けて次のように話している。「教師は、特定の年齢に達した子どもの教育を担います。その子どもたちは、人生の最初の段階で両親、恐らくは誤った教育を経験した後に受けているということを考慮しなければなりません。人間は最初期の育ちにおいて特別な教育を必要としているということを両親が理解するまで、私たちが目指していることは完全に達成することはできないのです。」

シュタイナーは5年前の1914年に、ボンで州の幼稚園教員養成課程を修了していたドイツ・アルザス地方出身の19歳であったエリザベス・グルネリウスに出会った。グルネリウスは、シュタイナーの『神智学』を読み、スイス・ドルナッハのゲーテアヌム建設に加わる決心をし、シュタイナーの指揮下でゲーテアヌムの彫刻を行う芸術家グループに加わった。グルネリウスが、ベルリンにある「ペスタロッツ・フレーベル・ゼミナール」で幼児教育を学ぶ前18か月間ドルナッハに滞在し、彫刻やシュタイナーの講義に参加した。その後、彼女は、新たな発展を見せているシュツットガルトのヴァルドルフ学校に引き寄せられることになる。

最初のヴァルドルフ学校が開校したのは1919年であった。その時シュタイナーは、幼稚園のために一部屋開放してもらうよう教師たちに頼んでいるが、それは不可能であった。当時は財政が困窮しており、教員は利用可能な全ての空間を追加の小学校の教室として利用することを選んだからである。1920年にシュタイナーは再び教員に対し、幼稚園の重要性について、「子どもを幼稚園に迎え入れることができれば、より良いことは確かです。迎え入れる期間が長ければ長いほど良いのです。このように就学の年齢に満たない子どもを入れるのです。もし我々が、子どもの最初の7年間の幼児教育を行うことができれば素晴らしいことなのです。最終的に、我々は幾分歳の若い子どもを受け入れなければなりません。子どもの年齢が上がると、はるかに教育の重要性は失せるのです」と述べている。小学校を訪れた後、シュタイナーが「我々には幼稚園が必要だ！我々には幼稚園が必要だ！」と叫ぶのを聞いた者もいたのであったが、幼稚園のための教室を開放してほしいと教員に頼んでみても再びそれは不可能であるとの答えしかなかった。後のグルネリウスのコメントによれば、教師たちは幼稚園の重要性について納得していなかったと示している。シュタイナーは、ドルナッハにいるグルネリウスを思い出し、3歳から5歳の子どもの関わりについて60ページに渡るカリキュラムを書いてほしいと頼んだのであるが、グルネリウスには子どもと直接的に関わる経験がなかったために、書くことは難しいと感じたのが事実である。グルネリウスはシュタイナーに次のように言っている。「私にはまず経験が必要と感じます。机に座って全てを理解することはできませんでした。今日、誰もが、子どもの時に模倣力を意識的に働かせていたことを想像するのは、おそらく難しいことです。教師たちは「教え」ますが、幼稚園教師は、教師自身の生活や存在を通して何をすべきか示さなければならない、ということを覚えておく必要があります。」

1920年の春になると、新政府が年度初めを復活祭から9月へと規則変更した。4月から9月までの半年「子どもの身があく」こととなり、シュタイナーは1920年の聖金曜日、グルネリウスに復活祭から9月まで幼稚園クラスを引き受けてほしい旨を伝えた。グルネリウスはシュタイナーに、「私は今、州の養成を終えました。子どもたちと一緒に働きたいと思っていなかったことは確かです。私は医学を学びたいと思っていました」と話している。シュタイナーは、「私はそのことをさらに考えなければなりません」と言い、まるでグルネリウスからの返答を待っているかのように立って考え込んでいるようであった。グルネリウスはその姿に戸惑いさえした。グルネリウスは、シュタイナーの後ろ盾があれば可能ではないかと考え、「あなたが私を支えてくれるのならば私はできます」と答えたのだった。

②グルネリウスの幼児教育実践

1週間後に幼稚園を開始したが、理想的な始まりではなかった。グルネリウスは毎日午後の3時間、1年生になる前の子どもたち20人と会ったのだが、その場所は、午前中に8年生が使用している固定された椅子が壁に沿って配置され、動かすことのできない重い机とテーブルがあり、床は黒く塗られていた教室であった。幼稚園が開始された時期は春と夏であったことから、ほとんどの時間を子どもたちと外で過ごすこととなった。

幼稚園におもちゃや遊具はなく、あったのは、「瞑想が幼稚園生活の基本であること」、「模倣から働くこと」というシュタイナーの言葉のみであった。この考えは、以前の幼稚園教員養成で出会わなかった根本的な考えである。この言葉を裏付ける事例をグルネリウスは挙げている。それは、毎日ドアを激しく閉める少女のことである。グルネリウスは何度かその少女にドアをうまく閉めるよう頼んだのであるが、直らなかった。3日目になってグルネリウスは自身がドアを完全に閉めていないことに気が付いたのである。そこで、グルネリウスは少女が見ているときに「上手に」ドアを閉めて見せたところ、その後少女は毎回ドアを上手に閉めるようになったのである。これは当時のグルネリウスにとってかけがえのない経験となった。

かつてグルネリウスはシュタイナーに、子どもが作成したクレヨン画を見せたことがある。シュタイナーは、大きなブラシと流れるような色で水彩画を描く方がよい、「大事なものは絵ではなく、子どもはあなたの『高貴な態度』を模倣すべきだ」と言った。グルネリウスは粘土も行った。「子どもたちはこの素材に手を突っ込んで作り始めるのを待ち切れなかった」と述べている。

幼稚園は夏休みの終わりまで続けられたが、その後、不適切な部屋で続行する可能性は低かった。また、資金不足と共に、教師たちからのサポートも未だない状況であった。そこでグルネリウスは、教員養成大学に入学し、1926年まで手仕事の教員として働き、担任教師の代理を務めたのである。

③公的なヴァルドルフ幼稚園の開園とグルネリウスの保育実践

グルネリウスは時々ドルナッハへ戻り、オイリュトミー、スピーチ、粘土、絵画、人智学理論などの芸術的な活動を行った。これらの経験は、ヴァルドルフ幼稚園のための訓練となった。この数年間、シュタイナーは教師たちに幼稚園の創設を促し、教育の根源や重要性などについて講義し、幼児教育者の働きについて話した。1924年、ヘルベルト・ハーンという一人の教師が、シュタイナーの呼びかけに答え、校庭に幼稚園を建設することになったのである。新しい幼稚園は、シュタイナーの死（1925年）から18か月後の1926年に完成した。園舎は、3つの部屋から成る「バラック」のようであった。オイリュトミーのための部屋の色は、シュタイナーが指示した「ローズマローのような青みがかった」ピンクで塗られ、絵画のための部屋は、「空よりも暗い」濃紺、遊戯室は、洋紅色であった。シュタイナーは、子どもが落ち着きないのか、ゆっくりなのか等状況に応じて、子どもにとって異なる色の経験が必要であると唱え、内的に生じる補色体験を重視した。例えば、子どもの睡眠問題についてシュタイナーは、ベッドの周りに深いオレンジ色のカーテンを付ける提案をしている。

外には砂場と庭があった。グルネリウスは、子どもたちが必要としていることを指先で感じ取り、瞑想的に取り組み、子どもたちから「引き出す」のではなく、模倣しながら取り組むことを目指して幼稚園の活動を構築しようとした。ある時、グルネリウスは、籠職人を招き子どもの前で作業してもらう機会を持った。その時の様子についてグルネリウスは次のように述べている。「彼は若い男性で、シャツの袖を捲り上げており、子どもたちは彼の強さを見た。彼は、大きな籠を持っていて、大きな枝で仕上げた。翌日、クロークルームで、とてもおとなしい少女のコート掛けから葎が

ぶら下がっているのを見た。私は少女になぜ葦が必要なのかを聞いた。『籠を作るの』と少女は答えた。それから私はすぐに葦と籠の底になる部分を買いに走った。翌日、4歳児全員が籠を作った。私は彼らの手伝いをしたかったのだが、子どもたちは自分で作成することができた。籠職人が働いている姿を見ていなかったら、子どもたちは決して籠を作ることはなかっただろう。』

④クララ・ハッターマンとの出会いとヴァルドルフ幼稚園の広がり

3年後、ハノーバー出身の若い女性で、ヴァルドルフ幼稚園教師になることを熱望していたクララ・ハッターマンが、グルネリウスのもとにやって来る。しかし、グルネリウスは、あまりにも経験がないと感じていた。仕方なく4、5人の関心のある小グループで会うことを承諾したのだが、彼らが到着した時には、受け入れの準備が整っていないと告げ、全員に帰ってもらうようお願いした。グルネリウスのインターンとなり、後に彼女の生涯の友人であり、同僚となったハッターマンを除いて、彼らは全員去っていった。この二人こそがヴァルドルフ幼児教育運動の開拓者である。

1931年、ハッターマンは、ハノーバーに小さな幼稚園を設立した。新しいハノーバーヴァルドルフ学校は、精神的にも財政的にも自立するのに苦労していたため、幼稚園は独立しなければならなかったのである。そこでハッターマンは、2部屋から成るアパートを借り、そのうちの一部屋を毎日子どもたちのスペースに変えた。ここで幼稚園は10年間にわたり運営され、毎日およそ20名の子どもが幼稚園を訪れるほどに開花した。

1938年、シュツットガルトとハノーバーのヴァルドルフ学校がナチスによって閉鎖されたが、目立たないハッターマンの自宅幼稚園は、1941年まで続いた。ナチスにより幼稚園が閉鎖され、ハッターマンはドレスデンへ逃れ、地下室に小さな幼稚園を開いた。これは、国家社会主義者によって見つかり閉鎖させられるまで唯一残っていたものである。

1940年、グルネリウスは友人からの招待でジェノバから米国に向けて出港した。1941年、グルネリウスは、ヴァルドルフ学校の基礎として、ペンシルバニア州キンバートンのマイリン農場に幼稚園を開設した。1948年、彼女は、ロングアイランド州ガーデンシティのアデルフィ大学のキャンパスに設立された新しいヴァルドルフ学校に幼稚園を設立した。ここでグルネリウスは、『幼児教育とヴァルドルフ学校計画』を執筆し刊行した。この本は日本語を含む多くの言語に翻訳された。

ハッターマンは1946年にハノーバーに戻り、再び幼稚園を開始したのであるが、その幼稚園はタール紙の屋根で、室内の雨漏りから逃れるための傘を準備するという状況下にあった。草が床を突き抜けて生え、冬には壁に霜が付いた。最初は、戦後の瓦礫の中で外遊びが行われ、幼稚園を建設するためのスプーンや釘を拾い集めた。今では学校の一部ではあるが、7年間にわたり幼稚園はこのような環境下で行われた。

木工の教師が家具を作り、学校経営者は園舎の社会的・財政的基盤を作ることに専念し、1953年のクリスマスに新しい幼稚園舎が完成した。

⑤組織としての成り立ちと発展

1950年、42歳のハッターマンは毎年、聖なる夜の数日間、他の幼稚園の教師を招待し、幼児につ

いての人智学的研究を深めた。彼らは、精神的な世界からきた子どもを受け入れることができるようになるためにどうすれば自身を成長させることができるかと問いかけた。幼稚園での仕事のために、私たちはどのような活動やアプローチを開発できるか。子どもを育てる親のためにどのようなサポートを提供できるか。彼らは、模倣力を持つ、感覚器官としての子どもの捉えや、幼児期の発達に関連する輪廻転生の考えについて理解を深めるのに苦労した。このようにして人智学的な人間観に基づく幼稚園の設立と発展に尽力したのである。これらの集まりは、1969年に国際ヴァルドルフ幼稚園協会として具体化されたものの始まりであったと言える。今日、1200以上の幼稚園、家庭的保育、親子グループ、ファミリーセンターを含む世界的な運動となっている。

⑥今後に向けて

このようなグルネリウスとハッターマンの勇気やたゆまぬ努力、逆境との向き合い、子どもに対する心からの愛と暖かさ、研究や内面の成長を通じて自分の仕事を継続的に深めることへの献身に対し、感謝の気持ちをもって振り返らなければならない。彼らは研究者であり、世話をしている子どもたちを正確に観察し、直感的に援助方法を感じ取っていた。彼らには先見の明があり、自分の身近な環境をはるかに超えて見ることができ、子どもの精神的な本性に意識的に関わることもできた。今日、我々は、これら先駆者の仕事を続け、新世紀における幼児のニーズを満たすための新しいアプローチを探っている。今日、我々が世話をする霊的存在のニーズとは何だろうか。どうすれば、子どもにとって模倣に値する存在として成長し、深化できるのだろうか。我々の仕事の核心にあるものはどのような精神性なのであろうか。ハノーバーにおける聖夜の初期の集まりは、毎年、聖霊降臨祭に行われる大規模な国際幼稚園会議へと発展した。何年もの間、ハッターマンは、シュタイナーによる「聖霊降臨祭の気分」という詩に続いて会議を開会した。その詩は、今後成長し、繁栄することを願う精神的な文脈を思い出させてくれるものとなっている。

(2) 概要の整理

上記資料概要を表にまとめると以下の通りとなる（表4）。

表4 “The Beginnings of Our Waldorf Early Childhood Movement by Susan Howard” の概要

年	内 容
1914年 「ペスタロッツ・フレール・ゼミナール」で幼児教育を学ぶ前18か月間	○シュタイナー：グルネリウスに出会う。 ・ドイツアルザス地方出身 ・19歳 ・ボンで州の幼稚園教員養成課程を修了 ○グルネリウス：ドルナッハのゲーテアヌム建設に加わる。
1919年 1919年9月	○シュタイナー：開校に先立ち、担任教師に向けて幼児期の子どもを迎え入れられなかった残念さを語る。 ○最初のヴァルドルフ学校が開校

1920年	○シュタイナー：再び教員に対し、幼稚園の重要性について話す。 ドルナッハのグルネリウスを思い出し、3歳から5歳の子どもの関わりについて60ページの提案書を執筆依頼
1920年春	○新政府：年度初めを復活祭から9月へと規則変更
1920年の聖金曜日	○シュタイナー：グルネリウスに復活祭から9月まで幼稚園クラスを依頼
1920年の聖金曜日から1週間後	○幼稚園開始（半年間）
1920年の聖金曜日から1週間後～夏休みの終わりまで	○夏休み後は環境や財政が整わず幼稚園の継続不可
1920年	○グルネリウス：教員養成大学に入学
この数年間	○シュタイナー：教師たちに幼稚園の創設を促す。
1924年	○ヘルベルト・ハーン：シュタイナーの呼びかけに応え、校庭に幼稚園を建設することを決定
1925年3月30日	○シュタイナー：死亡
1926年まで	○グルネリウス：手仕事の教員として働き、担任教師の代理を務める。時々ドルナッハへ戻り、オイリュトミー、スピーチ、粘土、絵画、人智学理論などの芸術的な活動を行う。
1926年	○最初の「公的な」ヴァルドルフ幼稚園が、シュツットガルトの最初のヴァルドルフ学校の中に開園
3年後（1929年）	○ハッターマン：グルネリウスの元を訪れる。
1931年～1941年	○ハッターマン：ハノーバーの2部屋から成るアパートに幼稚園を設立・運営
1938年	○シュツットガルトとハノーバーのヴァルドルフ学校がナチスによって閉鎖
1940年	○グルネリウス：友人からの招待でジェノバから米国に向けて出港
1941年	○グルネリウス：ヴァルドルフ学校の基礎としてペンシルバニア州キンバートンのマイリン農場に幼稚園を開設 ○ハッターマン：自宅幼稚園は1941年まで続く。
1946年～7年間（1953年）	○ハッターマン：ハノーバーに戻り、再び幼稚園を開始
1948年	○グルネリウス：ロングアイランド州ガーデンシティのアデルフィ大学のキャンパスに設立された新しいヴァルドルフ学校に幼稚園を設立
1950年	○グルネリウス：『幼児教育とヴァルドルフ学校計画』を執筆し刊行 ○ハッターマン：聖なる夜の数日間、他の幼稚園の教師を招待し、幼児についての人智学的研究を深める。
1953年クリスマス	○ハッターマン：ハノーバーに新しい幼稚園舎が完成
1969年	○聖なる夜の教師の集まりが国際ヴァルドルフ幼稚園協会として具体化

（3）概要分析

本資料には、グルネリウスとハッターマンの動向が詳細に示されており、当時のメモや会話などの情報も含めて様子を如実に示した点が価値づけられる。本資料に従うと、シュタイナーは、人間

の教育として乳幼児期の教育が非常に重要であることを強調していた点が読み取れる。シュタイナーの乳幼児期の教育の重要性について、例えば、『霊学の観点からの子どもの教育（Die Erziehung des Kindes von Geachtspunkte der Geisteswissenschaft）』³⁵⁾の中で、子どもの本質を捉えること、発達の順序性を重んじることから教育が始まる点が述べられている。就学期を迎えた子ども以上に、就学前の子どもの教育の重要性をシュタイナーは何度となく教員に訴えているが、それが届かないのは、財源の少なさや教室確保という物理的な背景に加え、グルネリウスが後に語っているように、乳幼児期の教育的価値に対する認識が低かったということが起因していることが明らかになった。1920年代におけるドイツや世界的な幼児教育の傾向を整理することにより、ヴァルドルフ幼稚園設立に対する困難性がより一層明らかになると思われる。

幼児教育展開の大きなきっかけとなったのは、学校制度改革にあった。復活祭から9月までの半年間、幼稚園を行うという提案であった。グルネリウスの後ろ盾をしながら始められた幼稚園は、幼児期にふさわしい物的環境は整わず、シュタイナーの幼児教育の根本である「瞑想・模倣」に従って野外での保育を中心に展開された。1920年9月以降の続行はなく、グルネリウスは教員養成大学に入り、公的な幼稚園が設立される1926年までシュツットガルトの自由ヴァルドルフ学校において手仕事の教師、代理担任として教員生活を送っていたことがわかる。ここでは教員養成大学と表記されているが、シュツットガルトの自由ヴァルドルフ学校の教員養成機関ではないかと推察する。

幼稚園の創設の動きが出たのは1924年のことであり、教師のヘルベルト・ハーンによってであった。ヘルベルト・ハーンについては、シュタイナーの教員養成に関する著書『ルドルフ・シュタイナー教育講座Ⅲ 教育芸術2 演習とカリキュラム』（高橋巖訳）の「訳者あとがき」の中で、「シュタイナーが自分の弟子たちの中から教育者として優れた人材を十二人選び、この新しい教師や関係者たちのために開いたのが、冒頭に述べた十五日間の講習会である。なお同講習会に参加した人たちの名は以下の通りである」³⁶⁾と書かれ、その名前の中にヘルベルト・ハーンが挙げられている。グルネリウスが指摘するように、当時、幼児教育に対する認識の低さがあつた中で、ヘルベルト・ハーンが幼稚園建設に乗り出すということは、シュタイナーの教育理念に賛同し、幼児教育の重要性について理解を深めた一人物とも推察される。よって、ヘルベルト・ハーンについても調査することにより、草創期のヴァルドルフ幼児教育に対する認識を詳細につかむことができる可能性がある。

新しい幼稚園はシュタイナーの死後に完成されたが、保育室はシュタイナーの色彩論を生かして作られたものであった。シュタイナーはゲーテの色彩論に学び、これに依拠して色彩の感情への作用という教育的意義を強調した。例えば、赤や黄色は魂の中に輝きの感情を沸き起こし、外に向かって自己を開いていく作用がある。シュタイナーの色彩論が、現在においても幼児教育のどのような場面に生かされているのか調査することも課題である。

グルネリウスとハッターマンのつながりは、ハッターマンの強い意志により実現した。二人は1929年に出会い、共にヴァルドルフ幼稚園の運営をしていくが、わずか2年後の1931年にハッター

マンはハノーバーに幼稚園を設立している。二人で運営した2年間の取り組みについては明らかになっていない。幼稚園運営に関わるカリキュラムや保育内容、子どもの記録や運営資料等について入手することができれば、当時のヴァルドルフ幼児教育の実態が明らかになることだろう。その後のグルネリウスの活動については、1940年から米国へ渡り幼稚園や学校の設立に寄与したこと、ハッターマンの活動については、ハノーバー、シュツットガルト、ドレスデンでの幼稚園開設とその発展等の動向はわかっているが、詳細な活動内容、カリキュラム等については不明である。両者が実際にどのような組織・体制下で保育活動を行っていたのか調査を続行したい。

ハッターマンの功績の一つとして、ヴァルドルフ幼児教育の組織を構築した点が挙げられる。1950年に始まった幼稚園教師たちの定期的な集まりが、1969年には「国際ヴァルドルフ幼稚園協会」(International Association for Steiner/Waldorf Early Childhood Education)³⁷⁾となった。現在も教員養成や幼児期のプログラムの提唱、ニューズレターや刊行物の発行等を行い、ヴァルドルフ幼児教育の発信拠点となっている。ハッターマンは、草創期ヴァルドルフ幼児教育を世界的な運動として立ち上げ、組織として位置づけを行ったパイオニアと言える。

3. まとめ

資料1・2・3の概要について、「第1期：グルネリウスとシュタイナーの出会いから幼稚園設立前まで（1914年～1926年）」、「第2期：幼稚園設立から幼稚園の世界的な広がり（1926年～1948年）」、「第3期：ヴァルドルフ幼児教育の組織化と我が国との接点（1950年～1985年）」と区分して一覧表とした（表5）。資料番号を示しながら、時系列で内容を整理したい。年号が不明な箇所については「－」と示す。

表5 資料1・2・3から見たグルネリウスとハッターマンの動向

年	資料No	内 容
第1期：グルネリウスとシュタイナーの出会いから幼稚園設立前まで（1914年～1926年）		
○1914年	3	○シュタイナー：グルネリウスに出会う。 ・ドイツアルザス地方出身 ・19歳 ・ボンで州の幼稚園教員養成課程を修了
○「ベスタロッチ・フレーベル・ゼミナール」で幼児教育を学ぶ前18か月前	2	○グルネリウス：19歳でシュタイナーの下で学び始める。
○1914年	3	○グルネリウス：ドルナッハのゲーテアヌム建設に加わる。
○－	2	○グルネリウス：ベルリンの「ベスタロッチ・フレーベル・ゼミナール」で幼児教育学を学ぶ。
○1919年	3	○シュタイナー：開校に先立ち、担任教師に向けて幼児期の子どもを迎え入れられなかった残念さを語る。
○1919年9月	3	○最初のヴァルドルフ学校が開校

○最初のヴァルドルフ 学校の設立後 ○1920年	2 3 3	○シュタイナー：グルネリウスに幼児期のカリキュラムについて書くことを依頼するが、グルネリウスは辞退 ○シュタイナー：再び教員に対し、幼稚園の重要性について話す。ドルナッハのグルネリウスを思い出し、3歳から5歳の子どもとの関わりについて60ページの提案書を執筆依頼
○1920年春	3	○新政府：年度初めを復活祭から9月へと規則変更
○1920年の聖金曜日	3	○シュタイナー：グルネリウスに復活祭から9月まで幼稚園クラスを依頼
○1920年の聖金曜日から 1週間後	3	○幼稚園開始（1920年8月末まで） ○夏休み後は環境や財政が整わず幼稚園の継続不可
○1920年9月以降	3	○グルネリウス：教員養成大学に入学
○1923年	1	○シュタイナー：「精神科学の観点からの教育実践」を講義
○－ ○この数年間	2 3	○シュタイナー：幼児教育と幼稚園教員の仕事についての講義を行う。 ○シュタイナー：教師たちに幼稚園の創設を促す。
○以前	1	○シュタイナーとグルネリウスが人生における最初の7年間について話す。（子どもの援助方法、幼稚園における学びと生活の原則としての模倣の在り方）
○1924年	3	○ヘルベルト・ハーン：シュタイナーの呼びかけに応え、校庭に幼稚園を建設することを決定
○1925年3月30日	3	○シュタイナー：死亡
○1926年まで	3 3	○グルネリウス：手仕事の教員として働き、担任教師の代理を務める。時々ドルナッハへ戻り、オイリュトミー、スピーチ、粘土、絵画、人智学理論などの芸術的な活動を行う。
第2期：幼稚園設立から幼稚園の世界的な広がり（1926年～1948年）		
○1926年復活祭 （4月4日） ○1926年 ○1926年	1 2 3 2	○シュタイナーが亡くなってから1年後、シュトゥットガルトのヴァルドルフ学校内に最初の幼稚園が設立 ○最初のヴァルドルフ幼稚園設立 ○最初の「公的な」ヴァルドルフ幼稚園が、シュトゥットガルトの最初のヴァルドルフ学校の中に開園 ○グルネリウスの教育実践： ・「ペスタロッツ・フレーベル・ゼミナール」で学んだ、水彩画、粘土、童話、歌、詩、リズムを保育に導入 ・直接的な指導ではなく、子どもが必要としていることを感知する。 ・模倣を通す。 ・瞑想的に働く。 ・芸術的な力（雰囲気）に包まれるようにするため、職人を幼稚園に招待
○3年後（1929年）	3	○ハッターマン：グルネリウスの元を訪れる。
○－	2	○グルネリウス：ハッターマンと共に幼児教育へアプローチを行う。
○1931年～1941年	3	○ハッターマン：ハノーバーに2部屋から成るアパートに幼稚園を設立
○1938年	1	○ハッターマン：ナチズムによって禁止されるまでシュトゥットガルトの幼稚園を運営
○1938年	3	○シュトゥットガルトとハノーバーのヴァルドルフ学校がナチスによって閉鎖

○ナチスにより学校が閉鎖された時 ○1940年	2 1	○グルネリウス：アメリカに渡り最初の幼稚園を開設 ○グルネリウス：アメリカへ招待されペンシルベニア州キンバートンに幼稚園を設立、その後ヴァルドルフ学校を設立し6年間指導する。
○1940年	3	○グルネリウス：友人からの招待でジェノバから米国に向けて出港
○1941	3 3	○ヴァルドルフ学校の基礎としてペンシルバニア州キムバートンのマイリン農場に幼稚園を開設 ○ハッターマン：自宅幼稚園は、1941年まで続く。
○1946年から7年間（1953年）	3	○ハッターマン：ハノーバーに戻り、再び幼稚園を開始
○1947年	1 1	○グルネリウス：1年間の休暇を取る。 ○グルネリウス：第二次世界大戦後にヴァルドルフ幼稚園設立を希望する幼稚園教師に連絡
○その後（1948年） ○1948年	1 3	○グルネリウス：ニューヨーク近郊ガーデンシティの大学内にあるヴァルドルフ学校に幼稚園を設立 ○グルネリウス：ロングアイランド州ガーデンシティのアデルフィ大学のキャンパスに設立された新しいヴァルドルフ学校に幼稚園を設立
第3期：ヴァルドルフ幼児教育の組織化と我が国との接点（1950年～1985年）		
○1950年 ○1950年	1 3 3	○グルネリウス：『幼児期の教育』を著し、英語で出版 ○グルネリウス：『幼児教育とヴァルドルフ学校計画』を執筆し刊行 ○ハッターマン：聖なる夜の数日間、他の幼稚園の教師を招待し、幼児についての人智学的研究を深める。
○それ以来	1	○『幼児期の教育』様々な言語に翻訳される。日本語版もある（1981年）。
○1950年～1951年	1	○グルネリウス：ハノーバーにおける最初の幼稚園会議に参加
○1952年～1953年	2	○グルネリウスとハッターマン：教員養成を行う。
○1953年のクリスマス	3	○ハッターマン：新しい幼稚園舎が完成（ハノーバー）
○1954年 ○ヨーロッパへ戻った後	1 2	○グルネリウス：アメリカから帰国、ドルナッハへと向かう。 ○グルネリウス：ドイツとフランスに多くの幼稚園を設立 ドイツにおける幼稚園運動を立ち上げる。
○その後（1964年）	1	○『幼児期の教育』ドイツ語で出版
○1969年 ○1969年	2 3	○ヴァルドルフ幼稚園協会がドイツに設立 ○聖なる夜の教師の集まりが、国際ヴァルドルフ幼稚園協会として具体化
○1984年（4月）	1	○ドルナッハで国際幼稚園会議が開催され、1000人以上の教師が参加
○ー	2	○国際シュタイナー幼児教育協会へと発展
○1985年	1	○日本から14人の幼稚園教師がハノーバーのヴァルドルフ幼稚園を訪れる。

資料1から3を統合したことにより、1914年にグルネリウスがシュタイナーと出会い、シュタイナーの下で学び始めた時から、1985年に我が国から14人の幼稚園教師がハノーバーのヴァルドルフ幼稚園を訪れたところまでの動向が明らかになった。その結果、ヴァルドルフ幼児教育の草創期を

「第1期：グルネリウスとシュタイナーの出会いから幼稚園設立前まで（1914年～1926年）」、「第2期：幼稚園設立から幼稚園の世界的な広がり（1926年～1948年）」、「第3期：ヴァルドルフ幼児教育の組織化と我が国との接点（1950年～1985年）」に分けることができた。以下、各期について考察する。

第1期は、「グルネリウスとシュタイナーの出会いから幼稚園設立前まで」（1914年～1926年）である。シュタイナーとグルネリウスが出会った時、グルネリウスは幼稚園教員養成課程を修了していたが、ドルナッハにおいてシュタイナーの下で学び始めた後、ペスタロッツ・フレーベル・ゼミナールにおいてさらなる幼児教育の学びをしている。ハワードの論考によると、ドルナッハに1年半滞在したことが示されていることから³⁸⁾、1916年もしくは1917年頃にペスタロッツ・フレーベル・ゼミナールに入学したことが予測される。この点について杉岡（2016）の論考においては、1918年に教育指導者の資格を得たことが示されていることから³⁹⁾、先の修業年は妥当と思われる。

ヴァルドルフ学校の設立後にシュタイナーは、幼稚園の開設に向けてカリキュラムの作成をグルネリウスに依頼するが断っており、医学を学びたい気持ちと同時に、幼児教育実践の経験不足から不安を抱いていたこともわかった⁴⁰⁾。新学期の変更が生じた1920年に、半年間の「お試し的」な幼稚園を始めたが、財政の問題、幼児期の教育にふさわしくない環境であったこと、小学校教員の幼児教育の重要性に対する認識の低さなどから幼稚園の運営は断念せざるを得ず、グルネリウスは教員養成大学に入り学びを続けることとなった。幼稚園設立に応えたのがヘルベルト・ハーンであるが、小学校教員であり人智学者であったハーンの人物像に迫り、シュタイナーとの関係性を明らかにすることで、幼稚園設立の背景が一層詳細になるものと考ええる。幼稚園続行が不可能となったとき、グルネリウスはヴァルドルフ学校の手仕事の教員及び担任代理として働いていることから、ヴァルドルフ学校での働きについても調査していきたい。

第2期は、「幼稚園設立から幼稚園の世界的な広がり」（1926年～1948年）の時期である。1926年に幼稚園が設立し、グルネリウスによる教育実践が開始された。グルネリウスはシュタイナーの幼児教育の基本とする「瞑想」と「模倣」に忠実にあり続けたと共に、ペスタロッツ・フレーベル・ゼミナールで学んだことを保育内容として取り入れたことは注目に値する。保育実践については、1950年に『幼児教育とヴァルドルフ学校計画』が書かれ、現在においても『七歳までの人間教育 シュタイナー幼稚園と幼児教育』を通して当初の保育実践をつかみ取ることはできるが、実際に残された保育実践の記録等を入手することができれば、草創期ヴァルドルフ幼稚園における保育内容や方法がより明確になる。

幼稚園開園から3年後にハッターマンがグルネリウスの元を訪れ、以降、同僚であり友人としてヴァルドルフ幼児教育の礎を築いていく。ハッターマンはシュツットガルトのヴァルドルフ幼稚園に来てから2年後にはハノーバーに新たな幼稚園を設立している点に関しては、その経緯が不明である。よって、1929年から1931年の間における幼児教育展開や新たな幼稚園設立に向けた背景について詳細に調べることが重要と考える。1940年以降は、グルネリウスのアメリカでの活躍の詳細と、

ハッターマンのハノーバーへの帰還後の活躍について、情報を収集し調査を行っていききたい。

第3期は、「ヴァルドルフ幼児教育の組織化と我が国との接点」(1950年～1985年)が見られた時期である。グルネリウスの教育実践は著書として世界の様々な言語に訳されて広がっていった。ヴァルドルフ幼児教育の理念と実践に対する認知度の広まりに貢献した著書と言える。現在もヴァルドルフ幼児教育のバイブル的な存在として学びの根幹である。一方、ハッターマンの貢献は、教員養成や教員会議の立ち上げにより、今日に続くヴァルドルフ幼稚園協会や国際ヴァルドルフ幼稚園協会への発展にあった。現在は、「国際ヴァルドルフ幼児教育協会」IASWECE (International Association for Steiner/Waldorf Early Childhood Education) として存在し、教員養成や刊行物の発行、様々な支援を行う拠点となっている。資料1のハッターマン自身が記述した文章には、日本からハノーバーに14人の教師が訪れたことが示しており、日本との交友関係を伺うことができる。グルネリウスは、我が国でヴァルドルフ幼児教育実践に携わった高橋弘子宛に1974年4月16日付で手紙を送っている⁴¹⁾。そして高橋は、「今年八十六歳の高齢ながら、いつまでも著者はドルナッハの丘の上で、静かに、しかし内的に活発な余生を送っています」⁴²⁾とグルネリウスについて述べている。「今年」とは、1981年のことである。グルネリウスと高橋との交流があったことから、1985年に高橋の運営する「みふじ幼稚園」の教師が、ハッターマンのハノーバーの幼稚園を訪問することとなったのではないかと推察する。グルネリウスの90歳を祝う本文書に我が国ことを書き入れたことは、グルネリウス、ハッターマンと我が国を結ぶ強い絆があったことを想像させる。

以上、3つの資料よりヴァルドルフ幼稚園の草創期における形成過程が、グルネリウスとハッターマンを中心に展開され、ドイツ国内のみならず海外への広がりも見せると共に、ヴァルドルフ幼児教育の組織も作られ、ヴァルドルフ幼児教育の根幹が築かれていたことが明らかになった。今後は、両者に関わった人物の調査や、保育実践に係るカリキュラムの発掘、保育実践の実態調査等、詳細な内容を追究し、ヴァルドルフ幼児教育の根本に迫ると共に、社会的な意義について考察することを課題としたい。

引用文献・参考文献

- 1) Susan Howard, 2005, "The First Waldorf Kindergarten: The Beginnings of Our Waldorf Early Childhood Movement", Gateways newsletter of the Waldorf Early Childhood Association of North America (閲覧日: 2022年1月18日)
- 2) 近藤千草, 2022, 「クララ・ハッターマンのバイオグラフィーに関する考察—資料整理を中心に—」『教育研究第66号』, 青山学院大学教育学会, pp.73-93
- 3) Rudolf Steiner, 1923, "Die Erziehung des Kindes und jüngeren Menschen Acht Vorträge Dornach" RUDOLF STEINER ONLINE ARCHIV < GA306 >
URL: <http://anthroposophie.byu.edu> 4. Auflage 201 (閲覧日: 2022年1月18日)
<本書の構成>
目次
第1講義 ドルナッハ 1923年4月15日

- 第2 講義 ドルナッハ 1923年 4 月16日
- 第3 講義 ドルナッハ 1923年 4 月17日
- 第4 講義 ドルナッハ 1923年 4 月18日
- 第5 講義 ドルナッハ 1923年 4 月19日
- 第6 講義 ドルナッハ 1923年 4 月20日
- 第7 講義 ドルナッハ 1923年 4 月21日
- 第8 講義 ドルナッハ 1923年 4 月22日
- 三つの質疑応答

- 4) RUDOLF STEINER, 1923, “Gegenwärtiges Geistesleben und Erziehung”, RUDOLF STEINER ONLINE ARCHIV < GA307>
URL : <http://anthroposophie.byu.edu> 4. Auflage 2010 （閲覧日：2022年 1 月18日）
邦訳 佐々木正昭訳, 1985, 『現代の教育はどうあるべきか』, 人智学出版社
- 5) 1926年の復活祭は、4 月 4 日である。
最初の幼稚園の設立場所について高橋（1995）は、「シュツットガルトのシュッピトラー通りに面した、エミール・モルトの邸宅で、アネリーゼ・シュネルというもうひとりの女性とともに、幼稚園を始めます」と記している。
高橋弘子, 1995, 『日本のシュタイナー幼稚園』, 水声社, p.29
- 6) 前掲書 1)
- 7) 近藤千草, 2019, 「草創期ヴァルドルフ幼稚園の設立経緯に関する考察—E・M・グルネリウスを中心に—」『教育研究第63号』, 青山学院大学教育学会, p.91
アーサイナス大学ホームページ <https://www.ursinus.edu/> （閲覧日：2022年 8 月18日）
- 8) Kimberton Waldorf School ホームページ
URL : <https://www.kimberton.org/> （閲覧日：2022年 1 月11日）
- 9) 前掲書 1)
- 10) E・M グルネリウス, 高橋巖・高橋弘子訳, 1999, 『七歳までの人間教育 シュタイナー幼稚園と幼児教育』, フレーベル館, 裏表紙「著者略歴」
- 11) アデルフィ大学ホームページ URL : <https://www.adelphi.edu/> （閲覧日：2022年 1 月18日）
1896年創立したロングアイランド州最古の大学
- 12) The Waldorf School of Garden City ホームページ
URL : <https://www.waldorfgarden.org/early-childhood-programs/#> （閲覧日：2022年 1 月11日）
- 13) ゲーテアスム（Goetheanum）とは、人智学に基づいた芸術活動である神秘劇を上演する建物である。
1913年、スイスのパーゼル近郊のドルナッハ（Dornach）に建設された。
- 14) 会議の開催について記された資料
“BEDEUTENDE FRAUEN IN HANNOVER” “Klara Hattermann (1909–2003)” LANDESHAUPTSTADT HANNOVER Juni 2013 Pädagogik : p.28
17人の幼稚園教師を招待したことについて記された資料
“Klara Hattermann und die Anfänge der Waldorfkindergartenbewegung.” Erziehungs-KUNST-Waldorfpädagogik heute : Schutzpatronin der Kinder Dezember 2019 Nana Göbel,
- 15) Nana Göbel, 2019, “Klara Hattermann und die Anfänge der Waldorfkindergartenbewegung.” Erziehungs-KUNST-Waldorfpädagogik heute : Schutzpatronin der Kinder
- 16) 前掲書15)
- 17) 前掲書10) p.3
- 18) 前掲書10) p.127
- 19) 前掲書10) p.127
- 20) 埋橋玲子, 2013, 「イギリスの就学前ナショナル・カリキュラムについて— EYFS（2012）にみる到達目標と評価」, 同志社女子大学 総合文化研究所紀要 第30巻, p.152
URL : <file:///C:/Users/chigu/Downloads/AN10052143-20130708-152.pdf> （閲覧日：2022年10月23日）

- 21) 前掲書20) p.153
- 22) 前掲書20) pp.153-154
- 23) “EYFS best practice all about... Steiner Waldorf education” p.23 (閲覧日: 2022年1月21日)
- 24) IASWECE (International Association for Steiner/Waldorf Early Childhood Education)
URL: <https://iaswece.org/home/> (閲覧日: 2022年1月21日)
- 25) 前掲書1)
- 26) 杉岡幸代, 2016, 「シュタイナー幼稚園の黎明期」, 『大阪キリスト教短期大学紀要』第56集, p.124
- 27) 前掲書10) 裏表紙「著者略歴」
- 28) 前掲書10) 裏表紙「著者略歴」
- 29) 前掲書26) p.125
- 30) Sunbridge Institute ホームページ <https://www.sunbridge.edu/> (閲覧日: 2022年8月24日)
1967年設立: <https://www.sunbridge.edu/about/history-of-sunbridge/>
場所: Chestnut Ridge in Rockland County, NY.
- 31) WECAN ホームページ <https://www.waldorfearlychildhood.org/> (閲覧日: 2022年8月24日)
- 32) IASWECE ホームページ <https://iaswece.org/home/> (閲覧日: 2022年8月24日)
- 33) Research Institute for Waldorf Education ホームページ <https://www.waldorfresearchinstitute.org/>
(閲覧日: 2022年8月24日)
- 34) 前掲資料31) (閲覧日: 2022年8月24日)
- 35) ルドルフ・シュタイナー, 松浦賢訳, 2020, 『完全版 霊学の観点からの子どもの教育』(Die Erziehung des Kindes von Gesichtspunkte der Geisteswissenschaft), イザラ書房
- 36) 『ルドルフ・シュタイナー教育講座Ⅲ 教育芸術 2 演習とカリキュラム』(Eraiehungskunst Seminarbesprechungen und Lehrplanvorträge) p.248「訳者あとがき」
女性: マリー・シュタイナー、モルト夫人、ケーゲル、フォン・ミルバッハ、ヘルマン、
C・フォン・ハイデブランド、ドルフス、ラング、ミータ・ヴァラー、キーザー (10人)
男性: エミール・モルト、エールシュレーゲル、ケルナー、ヴァルター・ヨハネス・シュタイン、パウマン、
ガイヤー牧師、ヘルベルト・ハーン、ルドルフ・マイヤー、シュトックマイヤー、R・タイヒラー、L・ノ
ル博士、A・シュトラコシュ、ヴォルフアー (13人) 下線部: 筆者
- 37) 前掲資料32) (閲覧日: 2022年10月23日)
- 38) 前掲書1)
- 39) 前掲書26)
- 40) 前掲書1)
- 41) 前掲書10) pp.127-128
- 42) 前掲書10) p.126